

OSAIS PPS 技術委員会／PSLX フォーラム PPS 作業部会 議事録

日時：2008年4月16日13:00～18:00

場所：MSTC 第一会議室

出席者 西岡靖之、岡宗秀一、手島歩三、山本明人、王喜宏、和田浩一、高橋達也、
加藤潤三、山田昌宏

1. 前回議事録確認

承認された。次回の内容について、手島さんから設計変更にかんする扱いについて話題提供できるとの提案があり、本日の内容に追加した。

2. PPS 投票の結果報告

投票の結果、委員会仕様として全会一致で4月10日に承認された旨の報告があった。今後、OASIS 標準をめざすが、その前に、実装事例を多くつくっていくことにした。国内の OASIS メンバーに引き続き連携を試みる（まずは個人的にアプローチする）。日本語の承認は、次回の会合または次回までにネット上で行う。

3. PPS 日本語版の内容確認

→パート1について、日本語化が完成した。内容を確認し、問題があればメール等で指摘することとした。

→パート2, 3については、日本語化が終わっていない部分を早急に完成し、メールでメンバーに連絡する。必要に応じて、次回前に投票を済ませ確定する。

日本語については、技術的な変更はできないが、用語の対応などについて検討が必要。また PSLX 標準仕様をベースに用語と考え方を決定することとした。

4. 設計変更とスケジューラの関係（手島さん）

3月15日に生産管理学会で発表した「生産スケジューリングと設計変更」について紹介があり、APS の今後の可能性について議論した。以下の議論があった。

(1) 設計変更時に資材の供給を切り替える場合、日時できりかえるか残り在庫で切り替えるかによってロジックがむずかしい。(2) 切り替えのタイミングは上流と下流で異なるため、あらかじめ予測して同期をとることがむずかしい。(3) 製番方式等で固定すると、納期変更等で順番が前後した場合に混乱することが予想される。

その他、ローリング計画についての話題があった。

5. なりゆきスケジューラのデータ構造（加藤さん）

加藤氏より、PPS とのデータ構造の関係（互換性）について説明があり、それを補足す

る形で、手島氏よりなりゆきスケジューラの機能の全体説明があった。

なりゆきスケジューラは、以下のメインの機能からなる

- (1) 資材供給計画エージェント
- (2) 優先順位計画エージェント
- (3) なりゆきシミュレータエージェント

資材供給計画エージェントは、製番管理型 MRP であり、製番オーダを作る／壊す。現物データ管理層とものづくり技術データ管理層があり、現物データ管理で「なりゆき」がわかる。現場現物の状況をシミュレーションし、状況を把握する。(3日くらいの状況がわかる) シミュレーションモードを切り替えて、粒度を調整することが可能。製番(仕様未定)を発行することができる。

作業指示は予定のみで、実績は扱っていない。資源は作業場レベルで定義され、階層的な定義は行わない。シミュレータの対象範囲は工場内。取引先、企業間オーダは対象外。入力する BOM の形式は問わない(必要な情報をもらえばよい)。階層は1階層のみ取り込む。(必要に応じて再度問い合わせ)。品目→プロセス→ステップ→加工機能→投入品目／生産物という構造の XML のマスターを入力情報とする。カスタマイズベースで実装する。

PPS 準拠のビューアとつなげる方法を模索するために、ApstoViewer の入力データ(PPS の XML)を加藤さんに送りインタフェースを開発することとなった。

6. ガントチャートビューアの紹介(高橋さん)

スケジューラが生成した作業指示を表示するための Web 上で実行可能な Java アプレットとして、高橋氏より、“ASTOPLANER Web ビューア”の紹介があった。FLEXCHE の画面とほぼ操作性が同じである。アプレットで実行。データは数メガの場合もあるのでその際のパフォーマンスが課題。ガントチャート以外で在庫や負荷グラフも表示可能であるが、在庫レベルや負荷はその都度計算する必要がある。PPS のデータを読めるようにすることが可能。今後、対応したい。

議論として、フレクシェ仕様の XML を表示に必要な部分のみをとりだして PPS にできないか、あるいは入力ファイル形式として PPS を追加できないかという要望があり、今後引き続き検討することとした。

7. 関連会社との情報連携(山本さん)

光電製作所の計画業務の全体像について説明があった。主に、3ヶ月先の生産計画の作成および資材調達へのしくみについて議論があった。現状では、製造と販売の連携を、“計画独立所要”という形式で実現。技術的な部分と、社内制度や慣習等の問題などが複雑にからみあっている、社内ルール化が必要、といった議論があった。

受注設計生産と見込み生産の事業部が両方あり、受注設計生産の文化がじゃましているという側面がある。営業部門に対して効果的なツールがあると文化が変わる可能性がある。

PPS の利用は少なくとも半年後くらいだろう。座席予約的な仕組みがあるとよい。(枠としての提示と納期回答) 座席予約のインターフェースが PPS にあると利用したい、という要望があった。

8. 次回の予定

項目：日本語の仕様確認 (投票済みの予定)

MOF デモに関する方針打ち合わせ

FA/PA に関する業務の話題 (王さん)

なりゆきシミュレータと ApstoViewer との連携デモ

その他の話題 (設計変更、座席予約、ローリング計画、階層型計画立案)

日程：6月19日 (木) 14:00~18:00

以上